

課題名 GPS を活用したシカ道の図化と効果的な捕獲について

群馬県立農林大学校 石黒 青

1 課題を取り上げた背景

シカの被害を減らすためには、捕る対策の強化により捕獲頭数を増加させる必要があります。そこで、農林業被害者が確実にシカの移動状況を把握するために、シカの移動経路（以下「シカ道」という）をGPSにより記録しました。そして、移動経路や食餌行動を可視化・共有化することで、林業従業者がシカの集中する場所を把握でき、捕獲につなげられるのではと考えこの課題を選定しました。

2 具体的な取組

群馬県富岡市大桁県有林において、GPS アプリ「Geographica」付きスマートフォン (iPhoneSE)(以下 GPS アプリ)を用いて、シカ道を記録・図化しました。

事前調査により、餌場・休憩場所と考えられた大桁山北斜面中腹の作業道付近から新植地を結ぶ範囲を調査地（約 10ha）とし、調査地域内のシカ道を踏査しながら GPS アプリに記録し、そのデータを地形図に図化しました。また、シカ道を中心にセンサーカメラを 10 台設置し、シカの出現状況を調べました。

そして、上記の調査結果を踏まえ、農林業被害者向けの「シカ道ガイド」を作成しました。

3 取組の結果

GPS アプリの記録データを図化した結果（図 1）、シカ道には以下の特徴がありました。①複雑に交差し網目状、②作業道から始まることが多い、③等高線に沿うことと直行することが多い、④寝床と思われる地点が確認できました。

また、センサーカメラによるシカの撮影頭数を狩猟期間が始まる 11 月 15 日

前後で分けて表 1 に示しました。特に No.6・7 においては、狩猟期間が始まってから、断続的に多数のシカが、暗い時間帯を中心に撮影されました。

4 まとめ

GPS を活用しシカ道を踏査することで、簡単にシカ道を記録・図化し、シカの移動経路等を推測できました。また、GPS は記録データを、皆で上書きしながら共有できる点が、被害対策を考える上で有用であると思われます。

狩猟が始まってから鳥獣保護区であるこの大桁県有林に、作業道を中心に、人目につかない暗い時間帯を狙って、多くのシカが侵入したと考えられました。このことから、シカ道の利用形態が変化することを考慮したうえで、作業道もしくは近接のシカ道が、捕獲には効果的な地点であると思われました。

前後で分けて表 1 に示しました。特に No.6・7 においては、狩猟期間が始まってから、断続的に多数のシカが、暗い時間帯を中心に撮影されました。

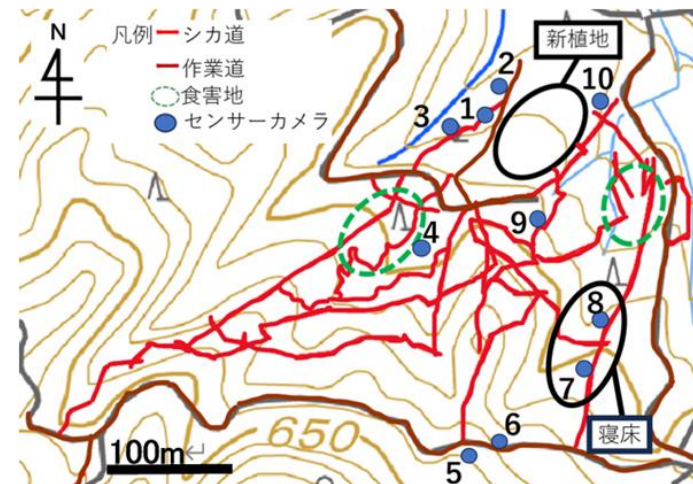


図 1 図化したシカ道とセンサーカメラ設置位置

表 1 センサーカメラによるシカの撮影頭数

設置箇所	期間別の撮影頭数	
	11/6~11/14	11/15~12/6
No.1	(欠測)	(欠測)
No.2	0	0
No.3	0	0
No.4	2	1
No.5	0	0
No.6	3	22
No.7	0	23
No.8	4	0
No.9	0	0
No.10	0	6
合計	9	52